

インプラント治療におけるマイクロ스코プの応用 (Neoss インプラントの臨床的優位性)

山口文誉
山口歯科医院

【抄録】

インプラント治療の一連のステップにおいて様々な場面でマイクロスコプは登場するが、その中の1つにインプラント周囲炎の治療がある。フィクスチャーの粗面部に付着したバイオフィルムを除去するにあたってはマイクロスコプ下でアクセスした方が確実に除去しやすい。しかし、複雑な粗面部に入り込んだバイオフィルムを完全に取り除くことは不可能であり、現在のところインプラント周囲炎の確定的な治療方法はない。よって、当然のことだが一番重要なことはインプラント周囲炎を起こさないことである。従って、現在までに解っている様々な予防策を理解し手を打っておく必要がある。徹底した口腔衛生指導ならびに術前の歯周炎の炎症のコントロールはもちろんだが、他にフィクスチャーの選択なども予防策の一つとして挙げられる。現在、表面性状の主流はフィクスチャーネック部までラフに仕上げたフルラフサーフェイスだが、インプラント周囲炎に罹患しにくく、罹患したとしても進行しにくく、罹患後も処置しやすい表面性状となると機械研磨表面の方がやはり有利である。よってカラー部は Smooth surface でスレッズ部は Minimally・Moderately rough な表面性状を兼ね備えた旧来からあるハイブリッドタイプの表面性状がインプラント周囲炎の観点から考察すると安心であると考えられる。さらに、このハイブリッドタイプの表面性状に加え、親水性も一緒に持ち合わせている Neoss インプラントが日本でも昨年より発売されることとなった。今回は、この Neoss インプラントについて臨床例を供覧しご紹介させて頂きたいと思う。

< 略歴 >

1998年 昭和大学歯学部卒業
2003年 日本歯周病学会専門医取得
2006年 山口歯科医院開業
2011年 日本歯周病学会指導医取得

日本歯周病学会指導医・専門医
日本臨床歯周病学会会員
日本口腔インプラント学会会員
日本顕微鏡歯科学会会員
OJ 正会員
Tokyo SJCD 会員